

1. 本事業実施地域の概要

本事業実施地域において、なぜ本事業に取り組むことになったのか等、事業実施に至った背景・経緯等の概略を整理した。

図表 1-1-1 事業実施地域における取組背景・経緯等概略

地域	取組背景・経緯等
下川町	・観光客をもてなす人材の育成、地域資源を活用した体験メニューの開発、地域食材を活かしたおもてなしメニュー等の開発、情報発信拠点の設置とコーディネーターの育成を目指すこととした。
花巻市	・市役所の掲げる小さな市役所構想のもと、各地区に振興センターが設置されたが、コミュニティ会議を設置し、地域ビジョンを策定する必要があり、ビジョン策定や具体的な事業を検討するにあたり、どのような人が地域の担い手となりえて、どのようなノウハウが必要かを模索している状態であった。
陸前高田市	・高齢化の進展とともに限られた地区内人口も減少する状況にあるが、大学との共同研究により、特産品である木炭を活用する動きもある。そのため、木炭の特性等に精通する人材育成やノウハウの継承とともに、地区で主催実施するイベント等の推進役、コーディネートを担う人材の育成を行う必要があった。
八幡平市	・八幡平市松尾地区が抱えている「負の遺産」と観光産業の低迷について、解決を図る必要があり、松尾鉦山跡地を地域資源として活用し、環境をテーマとした観光振興を図るということは決めたものの、交流人口の増大に向けて、自らが主体となり地域活性化に取り組む担い手がない状態であった。
西川町	・高齢化、少子化が進み、コミュニティの維持・運営も少しずつ困難になってきており早急に対応策を図る必要があった。そのため、新たに地域自治組織を形成する必要があったが、本事業実施を、そのきっかけとした。
大石田町	・町の活性化は、あくまでも町民が主体となって取り組むものであるため、取組に意欲のある住民が様々な角度から現状や課題を整理し、情報を共有し、先進事例の情報を得、相互研修を通じて自己啓発と新しいコミュニケーション手法を体得することを目標とした。
(旧大平町) 栃木市	・「協働のまちづくり」が推進・具体化されてきたが、運営・担い手の不足や団体間の連絡・連携・連絡不足の問題解決が出てきており、町民が一体となった町づくりを推進していくためにもコーディネーターとなり得る人材の確保・育成が課題であった。
泰阜村	・かつては建材や炭などの木材や養蚕が盛んであったが、資源としての価値が薄れている。また、コンニャクの有産地でもあったが、近年、輸入品におされ衰退している。地域の人口構成を見ても、高齢者が非常に多く、地域活性化のためには、人口が多い高齢者が元気になり生きがいを持つことが大切であるが、その手法や方策を模索している状態であった。

地域	取組背景・経緯等
(旧余呉町) 長浜市	<ul style="list-style-type: none"> 観光・交流事業の中核施設であるウッディパル余呉の集客が伸びないことが課題となっており、施設運営に関してマネジメント能力の高いリーダーやマネージャーを発掘・育成する必要がある。
柏原市	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府の重点政策の一つ「大阪ミュージアム構想」の一環として地域全体の活性化を促進することが決定しハード整備を行う環境は整えたが、それを担う人材がないことが課題であり、どのようなソフト事業を実施するか考慮していた。
丹波市・ 篠山市	<ul style="list-style-type: none"> 丹波市・篠山市にまたがる篠山層群での恐竜化石・哺乳類化石の発見を機に、丹波ブランドなどの既存資源を再発掘・再評価し、化石を軸としたエリア全体のまちづくりとしてまとめあげて、持続可能な地域経営を行える人を育成する必要がある。
黒滝村	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な森林資源を活用してグリーンツーリズムを推進し、村全体のまちづくりへとつなげていく必要があるが、これまで具体的な取組は行われておらず、ツーリズムに活用できる施設はあるものの、そこで体験させるプログラム等の開発や販促等を担う人がいない状況であった。
雲南市	<ul style="list-style-type: none"> 旧吉田村は昭和 60 年から、文化と産業のパートナーシップを謳い「鉄の歴史村」を中心にまちづくりを進めてきた。平成 16 年雲南市への合併を機に中心性が移動し、商店街の衰退が顕著になってきた。これまでまちづくりに参加していなかった住民の中から次の世代の担い手を発掘し、今一度住民活動を盛り上げるきっかけとしたいとの考えがあった。
海士町	<ul style="list-style-type: none"> 「離島のハンデ」という構造的問題の克服と経済的自立は、長期的課題であり目標であり、人材ネットワーク作りを主眼とした活動に取り組み、全国へ発信していく事を課題としていた。
笠岡市	<ul style="list-style-type: none"> 商店街を舞台に「海・山・町の三地域連携」の取組を進めることを目標としており、そのためにどのような情報を発信し、共有するのか等について整理する必要がある。
(徳之島町) 奄美群島	<ul style="list-style-type: none"> 奄美群島では行政区分よりも小さな集落という自治の最小単位をベースに独自の生活習慣や文化が培われてきている。これらの集落の個性が群島全体で連携・補完することが必要であるが、具体的にその取組をどのように行うのかといったアイデアや事業化に向けた連携をコーディネートする人材やリーダーが必要な状況であった。

地域	取組背景・経緯等
(国頭村、東村、大宜味村) やんばる3村	<ul style="list-style-type: none"> 国頭村、東村、大宜味村は豊かな自然に恵まれているが、人口の流出、少子高齢化、過疎化、農林漁家の後継者不足、公共事業の減少等による失業者の増加などの問題が顕在化し、地域活力の低下、農地・森林の荒廃化などに影響を及ぼす事から、交流人口の増加による課題解決を目指すことを望んだが、各地共にバラバラの動きを展開しており、観光客等の宿泊やツーリズムのニーズがあっても、取りこぼしている状況が見られていた。